

刊夕日八十二月八



定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
 発行所 常警毎日新聞社 電話 六三〇〇
 印刷所 常警毎日新聞印刷部 電話 六三〇〇

北満より一筆

前平刑務所長
 濱江監獄在任
 本庄 吉助

【三】

尙彼等の中には哈市に於ける貸家の拂底に鑑みこの際貸家業に轉業すべく店舗の賣込みを圖る一方新市街馬家溝其他に住家を建築すべく計劃を樹て地権の買収又は賃借契約に着手してゐるもの相當數に達し既に建築に着手した者も居る由のことです。

一、日本人相手に轉向せんとするもの、北支或は上海方面の經濟情態は哈市同様行き詰まりの状態にありとのことで小資本進出の餘地なきため止むを得ず哈市安住を志し北鐵接收當時より店員に日

千二百年
 前の法隆寺の玉蟲
 厨子には實際の玉蟲の羽を用ひて裝飾にしてある之に要した蟲の數は一千二百疋

本語の習得をなさしめると共に日本人店員を顧問として雇入れ商品仕入れの合理化、日本人向き商品の整備その他施設改善

を行ひつゝあり、それがため現在少數であるが日本人顧客を吸収しつゝあるが未だ問題にならず前途頗る多難を豫想されてゐる。その外映畫常設館も同様日本人資本家と合辦組織で店舗の維持經營を圖らんとするものも相

○明日の献立○
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

【朝】味噌汁 細いんげん
 小付 えんぶ佃煮

【晝】玉葱 玉子のいため
 煮

【晚】ひや奴 花かつを
 干種揚 さつま芋

蓮根 いんげん 三つ葉

當數に達する見込とのことであるが、右合辦及讓店の折衝は秘密裡に弘々開始されつゝある由で目下双方の主張一致せず行き悩んでゐる模様である由です

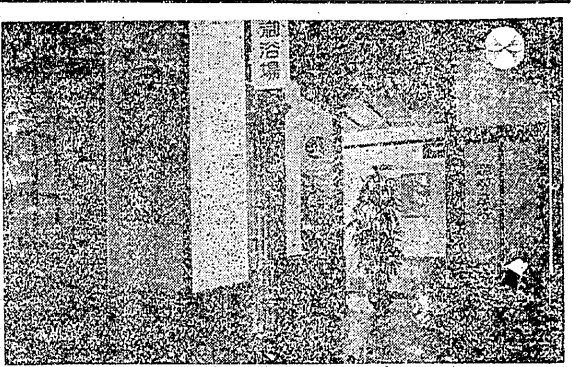
次に日本人建築家に於ける躍進振りを物語つて見ると最近邦人の資本に依る大小建築續出し地役術(日本街)に於ける康徳ビル、モストワヤ街の高岡ビルなど高層ビルディングが續々建築されたが、この外鐵道病院鐵道局の邦人社宅などハルビン市街の美觀を著し本年

中には赤十字病院、商工會議所、康徳會館、朝鮮合同料理店(目下建築中)などの大建築が完成する豫定であるが河れも最も新しい様式を採用し將來のロシア式建築に比して異彩を放つてゐる事業方面に於ても事變以來の資本に依るもので大満洲麥酒忽布會社、日滿製粉、大同酒精阿什河製糖、ハルビン日滿酒精等最も鞏固な地盤を持つて堅實に經營されてゐる。

日本語勃興に就し、ハルビンの日本化は従來ロシア人の獨舞臺であつたキヨイスカヤ街を遠慮なく侵蝕した街の兩側をロシア人の男女が手をつなぎ合してゆつくりした歩調で散歩してゐる特有の情景は目下夥しく跡方もなくなつて、活氣に充ちた足どりの邦人がめつきり増加し各商店はロシア人や滿人の商店まで日本語の看板を掲げシヨウインドウは日本語の説明書がついてゐる、そして一商店に二人や三人の日本語を解する店員が俯ひ入れてあつて邦人客は少しも不便を感じない、又商品も總て日本品ばかりで却つて旅行者が土産品を買ふのに困る位であつて邦人旅行者の土産品としては寶石位で他は更にあ

店員	が	行	を	連	れ	て	店
主	が	行	を	連	れ	て	店
正	シ	イ	酒	場	正	シ	イ
正	シ	イ	酒	場	正	シ	イ
正	シ	イ	酒	場	正	シ	イ
か	れ	る	食	堂	か	れ	る
を	連	れ	て	行	を	連	れ

平・田町
 レストラン
 電三五二番



9.5 m.m
PONY
 CINE-CAMERA
 ¥ 18.00
 PROJECTOR
 ¥ 17.00
 NISHIMURAY-YAKUHO
 TAIRA-2. TEL 3

コロンビヤ 新製品 蓄音器
 ポータブル 金貳十五圓
レコードは
 コロムビアの平益踊り
 其他新譜澤山あります
 平町五丁目(電一九五番)
金光堂時計店

株式賣買
 合資三共商事
 大町 電話三〇番

清涼の小龍へ!!
 ◇宿泊料 1.50 2.00 2.50
 (御滞在は左記料金にて中食料をふくませます)
 ◇日歸浴席料 .20
 ◇自炊料 .50— .80 入湯料・室料
 夜具料一切
 ◇料理一定食 .80 1.00 1.50
 その他一品料理洋食
 ◇湯 効 神経痛・リウマチス・骨痛
 病・持疾・婦人病・逆上・中風・肥胖病
 (内務省東京衛生試験所檢定済)
 ◇諸設備 檯球臺・高級ラヂオ・大廣
 間・讀書室・近代式浴場と洗面所・水
 洗式便所・小動物園・タクシー部・御
 子儀運動器具
 ◇名物 川魚料理(うなぎ・鯉)
 ●女中數名入用 蜂蜜羊かん
 常警線湯本驛 小龍鑛泉
 御旅館 瀧の湯
 電話 小名濱 103番

尼子自動車部
 表發選當籤抽待招御

第一日		第二日	
9 No. 89	17 No. 13	3 No. 137	12 No. 69
2.....155	12.....45	1.....39	7.....90
58.....24	2.....54	10.....21	13.....87
12.....91	6.....52	9.....33	16.....20
5.....86	4.....44	13.....89	12.....23
12.....101	3.....130	4.....32	5.....50
58.....6	9.....19	1.....31	4.....67
3.....69	16.....54	12.....29	11.....20
10.....14	12.....16	6.....59	11.....26
9.....32	9.....75	12.....44	16.....94
9.....88	1.....95	5.....34	13.....13
3.....57	3.....18	3.....93	16.....4
1.....27		17.....40	

左ノ番號當選致候間御當選の方は券御持
 參の上御招待日の午前八時迄に當商會車
 庫へ御參集被下候
 (時間勵行 晴雨にか、ワラズ)

難波 陸
 内科一般
 醫學博士
 看護婦募集
 平町大町新川端
 電五〇二

密漁の爆薬

突然爆發して

蛇岩淵に二名重傷

好問村大字上好問字内ノ草九七隅田川炭鑛坑夫渡邊寅雄(三)は豫ねて坑内から盗み出したダイナマイトを携へ同村字上ノ原二四農金成信衛(三)と共に昨廿七日夜半十二時頃同村字大畑通稱蛇岩淵地内の好問川で密漁

を企て金成がカンテラの火をダイナマイトに点火する際導火線が短かつたので忽ち大音響と共に爆發し兩名共腕や顔面等に重傷を負つて悶倒した事が平署に知れ火薬及び漁業取締法違反として取調中である

情婦を

置き去り逃走

豪農のお振込み 實は前科が六犯

湯本町三函山形屋旅館に本月十九日から豪農との振れ込みで滞在して居た西白川郡三神村大字三城目字谷中二九相樂金次(五)は情婦の郡山驛前カフエー浦よし方女給田村郡守山町生れ龍太郎二女と石マサ(三)と共に避暑気分毎日温泉に浸り贅澤を盡して居た處去る廿六日夜男は情婦を置き去りにして突然行衛を晦し了つたが宿料四十餘圓が未拂なので同旅館の届出に依り平署が取調ると豪農を装つた男は詐欺前科六犯で齊藤

司法主任が須賀川在勤中にも數回取調べた事のある強か者と判明今度も女を賣飛

旅館で

服毒自殺

湯本町字三函三九旅人宿越後屋事鈴木榮太郎方に去る廿六日より泊り込んだ田村郡大越村字山口神田音次(三)は昨廿七日午後三時頃カルモチンを多量に嚥下し苦悶中家人が発見應急手當を加へたが本廿八日午前一時絶命した原因は病氣勝ちの弱い体を悲愴した結果である

雨勢強く

一層の雑踏

既報赤井嶽薬師の例祭は本廿八日から廿九日にかけて執行されるが各地からの善男善女は空模様を気にし

明日の天気 二十九日 今朝も明日も南東の風驟雨模様

今晩の部

- 後六〇〇 子供の時間
- お話し対話「練習船の或日」稲垣次郎神戶高等商船學校生徒
- 後六二五 夏期特別講座 全國神社巡り札幌神社高松四郎
- 後七三〇 講演「農村に於ける次男三男の問題」戸田貞三
- 後八〇〇 哥澤芝野之香
- 後八一五 落語「三奉目」の幽霊三遊亭圓馬
- 後八三五 室内樂「ニコラインフェルブラット」レオショタ
- 後九一〇 歌謡曲「三門」

無銭遊與の土工

乗逃げ其他發覺

江名町字長崎居住土工木村榮松事朴須榮(三)は本月廿一日小名濱字古港飲食店大塚ハル方へ無銭で登樓、十圓七十九錢を遊與し平署に突き出されたが取調への結果去月末同人は工事場の飯場頭石山春吉に渡す労働賃金九十四圓のうちから十八圓を使い込んだ外小名濱町小濱自動車部の貸切車を二回に亘つて乗逃げした事が發覺したと

遊戯講習終了

石城郡女教員會の唱歌遊戯講習會は廿八日午後一時終了した尚講師石井小浪女史は直ちに三重縣下の講習會出席のため出發した

赤十字の寄附

平町紺屋町米穀商馬目玉彌氏は昨年十月赤十字福島支部の事業資金として八百圓を寄附し本日伊藤知事より褒賞を授與された

荷馬車を

避けんと

小名濱町字古港多崎弘太郎(三)は去る廿六日午前十一時頃トラクに鮮魚を積んで泉村字瀧尻地内を疾走前

明日の部 順子橋本一郎 後九三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

平裁判たより

- △住居不定無職大沼郡永井野村大字永井野生り前科五犯高久喜一(五)が昨年八月頃より今年七月末まで十八回に亘り平窪村農小野龜松外十數軒へ忍入り白米木炭等百十八圓餘を窃取した事件は今廿八日午前十時より平區中島裁判長係り清田檢事立會で公判開廷求刑懲役五年を即決言渡しがあつた
- △職を求むる方 回 人を求める方
- △子守 十六迄 尋卒
- △製材見習 十九才 尋卒
- △日給四十錢迄
- △漁業雑夫 二十前後 十五圓
- △旅館番頭 尋卒 委細面談
- △回職を求むる方
- △運轉助手 二十一才 高卒
- △土工夫 三十二才 尋卒
- △雜役 三十七才 實業三

一冊の代金で

御希望通りな

五冊の雑誌が自由に讀める 川崎 回文庫 電六三〇番 (申込次第規則書進呈)

井坂醫院

平町 田町 電話五五九番

山内醫院

平町・田町 電話六九一番



明治太平記

(上巻及上巻)
(作) 寺島雄之助
(監) 野口松世

第二百一十一回

浪々の身 (三)

井手はなせかあたりたに氣をくばりながらおとわに呼びかけて云つた。

「おとわさん、ウエルズもわれ／＼同様に浪々の身の上よ」

「え、それはあのう、ほんとう？」

「パークス公使の逆鱗にふれてやつぱりお拂ひ函なのさ……だからいまならこの井手は本氣になつてすゝめるよ」

「あのこと？」

「きうさ。英國公使館附武官ならちよいとやかましくなるが、もう彼奴も浪人だとなりアばつさり……どうだい」

「……」

おとわも反射的にあたりたに氣を配つた。

「いまが潮時だ。やつちまつた方がいゝ、及ばずならこの井手六三郎は大志賀に代つて助太刀するよ」

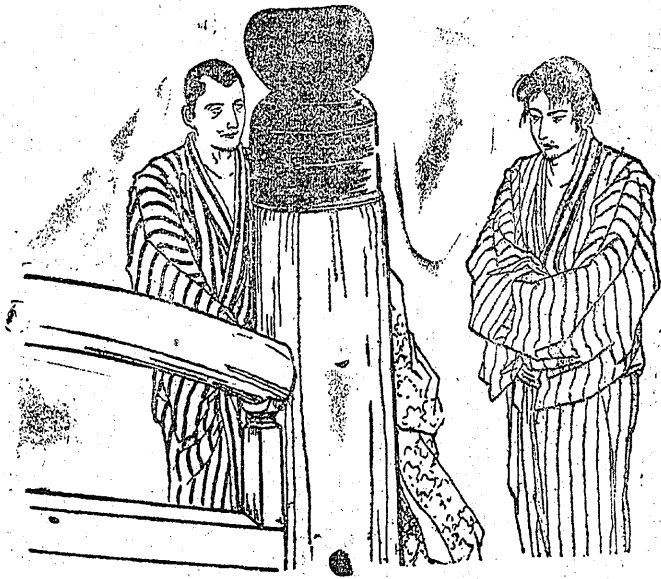
失業浮浪のはかなさが云はせるのだらう。井手は眞實それをおとわにすゝめるのだつた。

浪々の男女男は日本橋のたもとをいつか離れ京橋の

方へ向つて肩をならべながら歩いてゆく。

「ときにおとわさん」

開化男の井手は身振りこそ食しいがあらら、紳士のやうな態度物腰で話かける「よしきな話があるのさ」



「……」

おとわは往還の女たちの青日傘に、せんならしい羨望の瞳を投げながら返事がなかつた。

「世の中にふしぎなことがあるものさ」

「もしも井手はくり返さねばならなかつた。」「いつたに何のことです」

芳三郎はおとわに代つてき返した。

「つまり、英國公使館附武官ウエルズをかたきと付けねらつてをるをなごはおとわさん、あんた一人だとおもつたら大きなまちがひなのさ」

「え」

やつとおとわは青日傘から瞳をはなした。

「ちや、ほかにもウエルズの首をむつてをるをなごが居るんだね」

芳三郎にまたおとわに代つた。

「しかも同じらしやめんだといふてはないか」

「らしやめん？」

「らしやめんで、ウエルズをかたきと付けねらふ……何だか真似てるやうだがこれは嘘ではない、しかも驚いちやいけない、そのらしやめんの旦那といふのはパークス閣下なのさ」

「まあ」

おとわは、いつか茂平次とホテル館にパークスを訊ねていつたとき寢室のカーテンのかけから覗いてゐた眼もさめるやうな長襦袢のあの女主人公が自分と同じくウエルズをねらつてゐる女だつたのか……とおもつた。

「あんな女が……?」

それ當然自分の競争者であらねばならない。まけてはならない、といふ程な意氣……だがまさかあの長襦袢の女主人公は、大志賀市之丞に助太刀をたのみはしない。

それで少しは氣も鎮まつた。

「だからおとわさん」

井手は専好家の癖としてつねに能辯を出しをしむ。「しかたないわ、いくら現れたつて……」

看護婦急派

求めに應じ

ます

平町南町

平看護婦會

電話三〇七

木村病院

平町新川町十九
電話一六四番

夜間診療

胃腸性病性

内科 専門

花柳病科
性病科
皮膚科

胃腸病科

松村性病胃腸院

(平町南町一〇七番)

内科 小兒科 花柳病科

藤沼醫院

平町紺屋町 電話五〇七番

外科 専門

木村外科醫院

花柳病科

自炊入院の便あり

電話三〇九番
平町六丁目橋際

磐城セメント會社特約店

全盛豆腐店

磐城平町五丁目 電話九番九九

□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷はの生命なり

外科 口腔科 歯科

レントゲン科

平町土橋通り
電話三一三番

院長 東京齒科 原 精一
東京齒科 醫學士 柏倉 武男

原齒科醫院

吉田眼科病院

平町紺屋町 電話六八番

醫學士 吉田 久雄